

令和5年度（2023年度）第1回北海道東部の竪穴住居跡群調査懇談会 議事概要

1 日時及び場所

日時：令和6年（2024年）3月14日（木）10時00分から12時00分まで

場所：北海道庁別館西棟 札幌道税事務所会議室

2 出席者

<構成員：2名>

熊木俊朗 東京大学大学院人文社会系研究科 教授（座長に選出）

高瀬克範 北海道大学大学院文学研究院 教授

<竪穴群調査の実施に関係を有する者：1名>

立田 理 北海道立埋蔵文化財センター指定管理者（公財）北海道埋蔵文化財センター 主査

<北海道教育委員会：5名>

菅野泰之課長、藤原秀樹課長補佐、ほか3名

<傍聴者：0名>

3 話題提供及び意見交換

<話題提供>

令和5年度竪穴群現況調査について事務局が報告し（1）、（公財）北海道埋蔵文化財センターが令和5年度重要遺跡確認調査について報告した（2）。

（1）大樹町のホロカヤントウ周辺の竪穴群を対象にGPSを用いて竪穴分布を測量し、取得した座標情報及び地図情報等をGISソフトで統合することにより、竪穴群保護に必要な基礎情報を取得した。基礎情報の整備により、一部の埋蔵文化財包蔵地の範囲に修正が必要な箇所があること、また人工林に分布する竪穴群については森林施業の影響に注意が必要であることが明らかとなった。

（2）令和5年度重要遺跡確認調査では、興部町に所在する興部豊野竪穴群（B）で発掘調査を実施し、トレンチによる調査により、擦文文化期の竪穴の検出、及び竪穴の分布域を把握した。

<意見交換>

（1）令和5年度竪穴群現況調査

（熊木氏）

- ・人工林に所在する竪穴群は、森林施業の影響を受ける可能性がある。今回の現況調査で得られた基礎情報の整備は、竪穴群の保護に重要と考える。
- ・湖周辺における竪穴群の分布について、太平洋岸・オホーツク海岸など地域によって傾向が異なる。その差異を考えていく上で、報告を興味深く聞いた。
- ・令和5年度の調査は冬季に実施されているが、積雪により検出されなかった竪穴も想定されることから、可能であれば冬季以外に踏査を実施することを検討しても良いかもしれない。
- ・LiDAR 搭載のドローンによる考古遺跡の測量について、調査事例の情報を収集すると良いと思われる。この測量方法は竪穴群の測量に適していると考えられる。

（高瀬氏）

- ・今回の調査によって得られた成果は、今後の竪穴群保護・活用に有益と思われる。
- ・GPSの追跡機能をGISで表示できるようにし、踏査実施済範囲・未了範囲を把握できるようにしておく方が良いと考える。踏査を行って竪穴が検出されなかったのか、あるいは踏査未実施で竪穴が検出されていないのかを情報として蓄積しておく必要があると思われる。
- ・ホロカヤントウの湖頭（北西側）に竪穴群が所在しないということならば、釧路地方とは遺跡の分布傾向が異なっているのかもしれない。

- ・ 竪穴の窪みの深さデータを取得できるのであれば、方法を検討すると良いかもしれない。そのデータは地形面と竪穴の関係を検討するうえで有益なデータとなるかもしれない。
- ・ 千島列島の海岸で、砂丘に所在する遺構が強風でえぐられるように浸食を受け、地表に遺物が分布しているのを実見したことがある。北海道では砂丘がそのような強風にさらされることはないかもしれないが、海跡湖の砂丘に所在する遺構の可能性も注意した方が良いかもしれない。

(2) 令和5年度重要遺跡確認調査

発掘調査の対象となった2軒の竪穴の先後関係について、興部豊野竪穴群における昭和40年代の調査について、興部高校による調査及び高校に保管されている遺物等について、意見交換が行われ、過去の調査関係者への聞き取りを実施することについて助言があった。